

令和5年度

全国学力・学習状況調査結果報告【概要版】

印西市 小学校・中学校



いんザイ君©2011 Inzai City

印西市教育委員会

印西市教育センター

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査を実施した児童生徒数（印西市）

- 小学校第6学年・・・1,099名
- 中学校第3学年・・・917名

(3) 調査事項及び手法

①児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査〔国語、算数・数学、英語〕

国語、算数・数学、英語はそれぞれ次の（ア）と（イ）を一体的に出題。

- （ア）身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- （イ）知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

イ 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。

②学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施。

(4) 調査実施日

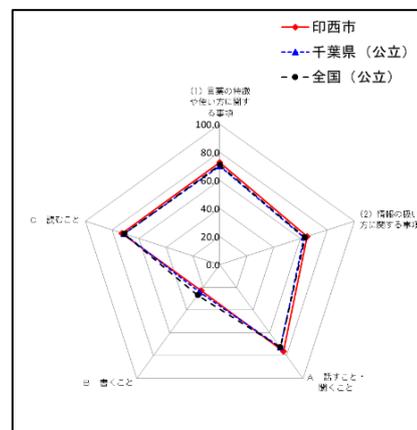
令和5年4月18日（火）

2 小学校調査

(1) 教科に関する調査【全国・千葉県との比較】

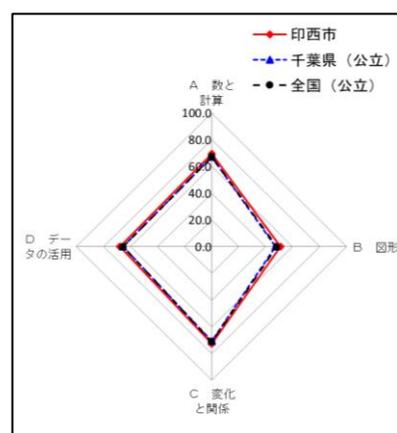
【国語】

対象児童数		印西市	千葉県(公立)	全国(公立)		
		1,099	48,041	964,177		
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)			
			印西市	千葉県(公立)	全国(公立)	
全体						
		14	69	67.2		
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	73.0	70.4	71.2
		(2) 情報の扱いに関する事項	2	65.0	62.5	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	76.3	72.8	72.6
		B 書くこと	1	22.7	24.0	26.7
		C 読むこと	3	72.6	71.3	71.2
評価の観点	知識・技能	7	70.8	68.2	68.9	
	思考・判断・表現	7	67.0	65.2	65.5	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	9	75.9	73.4	73.6	
	短答式	2	64.4	61.2	62.7	
	記述式	3	50.8	50.1	51.1	



【算数】

対象児童数		印西市	千葉県(公立)	全国(公立)	
		1,099	48,041	964,350	
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			印西市	千葉県(公立)	全国(公立)
全体					
		16	65	62.5	
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	69.3	66.9	67.3
	B 図形	4	51.1	47.4	48.2
	C 測定	0			
	D 変化と関係	4	72.3	70.7	70.9
	D データの活用	3	68.0	65.3	65.5
評価の観点	知識・技能	9	69.5	66.8	67.2
	思考・判断・表現	7	58.3	56.0	56.5
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	60.2	57.2	57.7
	短答式	7	76.7	74.4	74.7
	記述式	4	49.1	46.7	47.3



【結果と分析】

<国語>

- ・全体の正答率は、全国平均・県平均を上回っている。
- ・領域等別では、ほぼ全国平均・県平均を上回っている。ただし、「書くこと」の領域は全国平均・県平均を下回った。
- ・問題形式別で見ると、選択式と短答式において全国平均・県平均を上回るが、記述式は全国平均を下回る。記述式の設問に課題がある。
- ・設問別では、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られる。

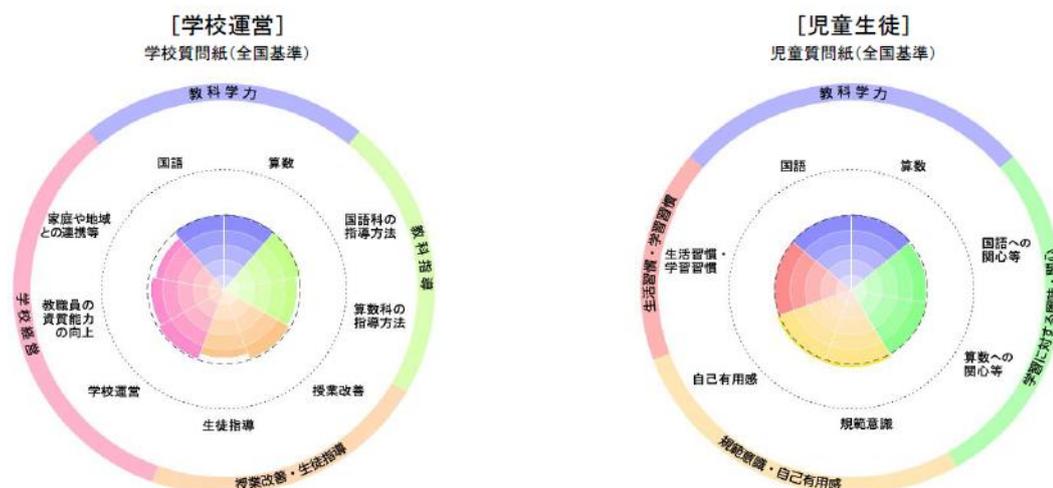
<算数>

- ・全体の正答率は、全国平均・県平均のどちらも上回っている。
- ・領域等別でも、すべての領域で全国平均・県平均のどちらも上回っている。
- ・問題形式別では、すべての形式で全国平均と県平均のどちらも上回っている。しかし、記述式においては50%に達していないため、今後の課題といえる。
- ・観点別においても、全国平均と県平均のどちらも上回っている。
- ・設問別では、概ね良好な結果である中で、1(3)「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できる」においては、全国平均と県平均を下回っている。答えや計算の仕方だけでなく、求め方について、表などを用いて変化の規則性を基に説明できる力の育成が望まれる。

(2) 学校質問紙調査・児童質問紙調査

【全国との比較】※左：学校質問紙 右：児童質問紙

学校数	児童数
18	1,099



【傾向と分析】

<学校質問紙>

- ・国語の授業において、互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、異なる意見を生かして自分の考えをまとめるような指導は十分取り入れられている。好ましい人間関係を築き、継続させるといった言葉の働きに気付かせる指導方法を工夫したい。
- ・算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業の更なる充実が必要である。また、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、実感を伴った理解をする活動を工夫したい。
- ・勤労観・職業観を育む指導を充実させ、児童のよさや可能性を見いだす取組を継続することで、課題の解決に向けて主体的に取り組むことができる児童の育成につなげたい。

- ・『家庭学習のてびき』等を活用し、家庭での学習内容・方法・時間について具体例を示すことができている。児童が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かしている。

<児童質問紙>

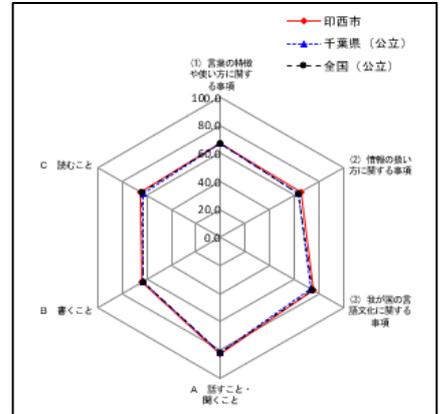
- ・学習に対する関心や意欲については、国語と算数は国や千葉県と比較すると同等である。英語では、将来的に仕事や日常生活の中での活用する場面を考えて、学習の大切さを感じている児童の割合が国や千葉県を上回っている。
- ・地域の行事に参加している割合は全国を下回るが、前年度に比べ向上が見られた。感染症対策で制限されていた行事が通常開催されるに従って、児童の関わりが増えていくことが考えられる。
- ・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童の割合は、国や千葉県を下回っている。「ふるさと印西学」の実践を通して印西市をより知ることによって、地域社会への関心を高めさせたい。
- ・規範意識は経年で見ても高い割合を維持している。自己有用感については、国や千葉県を下回っているが、学校の規模によっては上回っている学校が多数あった。教員が児童のよいところを評価していることが、児童の自己有用感の向上につながっていると考えられる。
- ・PC・タブレットなどのICT機器は日常的に活用している。グループごとの共同作業においてもタブレットをよく活用し、作業中や成果物についての話し合いが増えることで個々の思考が広がり、さらに主体的・対話的で深い学びへつながっていると考えられる。

3 中学校調査

(1) 教科に関する調査【全国・千葉県との比較】

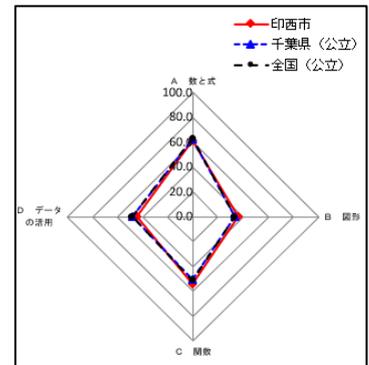
【国語】

対象生徒数		印西市	千葉県(公立)	全国(公立)		
		917	44,879	892,738		
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)			
			印西市	千葉県(公立)	全国(公立)	
全体						
		15	71	69	69.8	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	66.8	67.4	67.5
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	2	65.3	63.2	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	75.4	72.9	74.7
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	83.3	81.5	82.2
		B 書くこと	2	63.9	63.3	63.2
評価の観点	C 読むこと	4	65.5	63.4	63.7	
	知識・技能	7	70.0	68.6	69.4	
	思考・判断・表現	9	71.1	69.4	69.7	
問題形式	主体的に学習に取り組む態度	0				
	選択式	7	75.3	73.4	73.1	
	短答式	4	66.1	64.3	65.6	
	記述式	4	67.9	66.9	68.0	



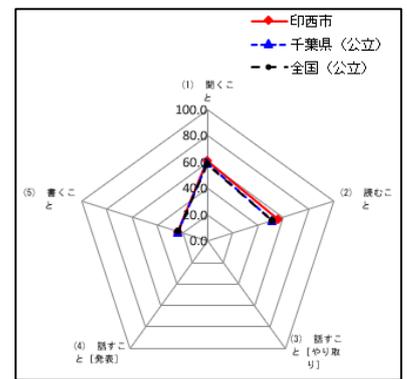
【数学】

対象生徒数		印西市	千葉県(公立)	全国(公立)	
		913	44,888	893,114	
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			印西市	千葉県(公立)	全国(公立)
全体					
		15	51	51	51.0
学習指導要領の領域	A 数と式	5	61.0	62.4	63.0
	B 図形	3	35.7	33.0	33.2
	C 関数	4	53.8	50.5	51.2
	D データの活用	3	45.2	48.3	48.5
評価の観点	知識・技能	10	55.6	55.7	55.7
	思考・判断・表現	5	41.5	40.3	41.6
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	4	45.9	45.8	45.3
	短答式	6	62.0	62.3	62.6
	記述式	5	41.5	40.3	41.6



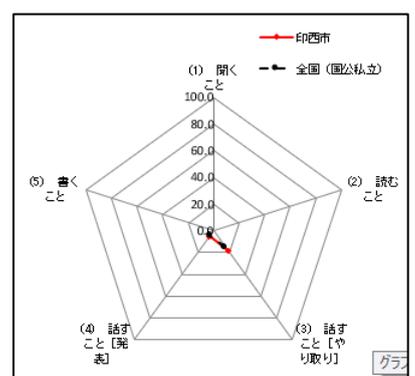
【英語】聞く・読む・書く

対象生徒数		印西市	千葉県(公立)	全国(公立)	
		914	44,925	893,528	
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			印西市	千葉県(公立)	全国(公立)
全体					
		17	48	46	45.6
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	6	61.5	59.4	58.4
	(2) 読むこと	6	55.5	51.1	51.2
	(3) 話すこと[やり取り]	0			
	(4) 話すこと[発表]	0			
	(5) 書くこと	5	24.0	23.3	23.4
評価の観点	知識・技能	9	55.3	51.8	51.5
	思考・判断・表現	8	40.5	39.1	38.8
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	12	58.5	55.2	54.8
	短答式	3	30.1	30.0	30.1
	記述式	2	14.8	13.3	13.5



【英語】話す

対象生徒数		印西市	全国(国公立)	
		855	814,666	
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)*	
			印西市	全国(国公立)
全体				
		5	15	12.4
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	0		
	(2) 読むこと	0		
	(3) 話すこと[やり取り]	4	18.0	14.5
	(4) 話すこと[発表]	1	5.0	4.2
	(5) 書くこと	0		
評価の観点	知識・技能	3	15.9	13.9
	思考・判断・表現	2	14.6	10.1
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	0		
	短答式/口述式	3	15.9	13.9
	記述式/口述式	2	14.6	10.1



【結果と分析】

<国語>

- ・全体の正答率は、全国平均と県平均を上回っている。
- ・領域等別では、全国平均と県平均を上回るか同等程度であった。ただし、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域は全国平均と県平均を下回った。
- ・問題形式別で見ると、選択式と短答式においては全国平均と県平均を上回るが、記述式は全国平均を下回る。記述式の問題では、無解答の割合が1割を超える。自分の考えを書いて表現する学習をさらに授業に取り組んでいく必要がある。
- ・設問3「文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる」が全国平均、県平均を下回っている。普段の学習において同音異義語や同訓異字語を取り扱い、実際に書く活動を通して漢字を正しく用いる態度と習慣とを養うことが大切である。

<数学>

- ・全体の正答率は、全国平均と県平均のどちらも同程度である。
- ・領域等別では、「B図形」「C関数」の領域では全国平均・県平均を上回っている。
- ・問題形式別では、選択式・記述式では全国平均と県平均を上回るか同等である。しかし、短答式においては全国平均と県平均を下回っている。
- ・観点別では、思考・判断・表現は全国平均を下回っているが、県平均は上回っている。
- ・設問別では、5「累積度数」で全国平均と比べると3.2ポイント下回っている。累積度数を相対度数と捉えた誤答が2割くらいの生徒に見られた。累積度数の必要性と意味を理解できるよう指導することが大切である。

<英語>

【聞く・読む・書く】

- ・全体の正答率は、全国平均と県平均を上回っている。
- ・領域等別では、全ての領域で全国平均と県平均を上回っている。「読むこと」の領域では、全国平均4ポイント上回っている。
- ・問題形式別で見ると、選択式と記述式においては全国平均と県平均を上回り、短答式は全国平均と県平均と同程度である。
- ・設問別では9(1)②「与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる」が全国平均と県平均を下回った。一般動詞の疑問文を正確に書くことに課題が見られる。

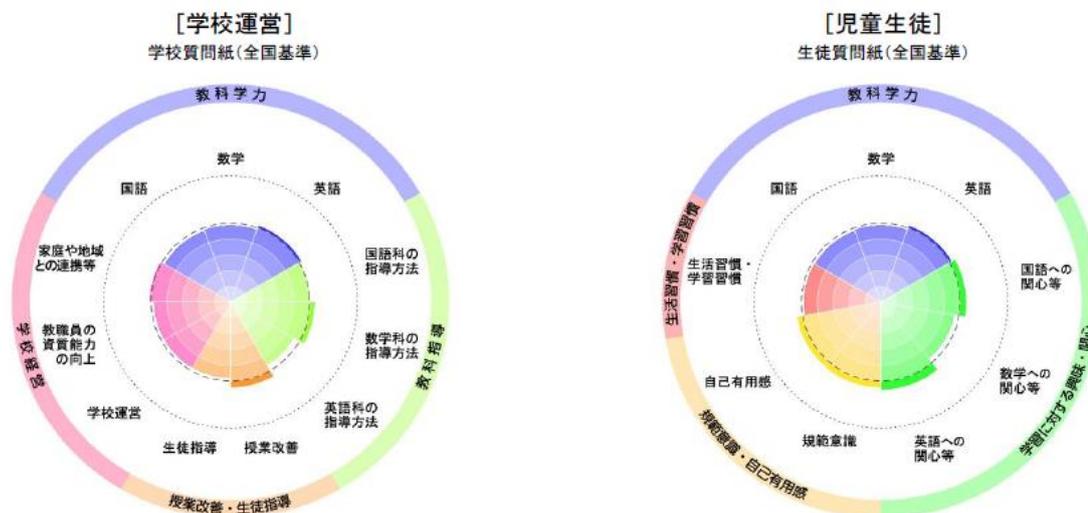
【話す】

- ・全体の正答率は、全国平均を上回っている。
- ・領域等別、問題形式別、観点別の全てにおいて、全国平均を上回っている。しかし、約55%の生徒が正答数0問であり、基本的な表現を理解し即興で伝え合うことができるように言語活動に取り組ませることに課題があると考えられる。
- ・やり取りの中で質問を受け誕生日を伝える問題では、正しい日付を用いて解答できた割合と同程度の割合で、誤った日付で解答している生徒が見られた。日付に関する基本的な表現を理解し、活用できる技能を身につけさせることを大切にしたい。

(2) 学校質問紙調査・生徒質問紙調査

【全国との比較】※左：学校質問紙 右：生徒質問紙

学校数	生徒数
9	917



【傾向と分析】

<学校質問紙>

- ・国語の指導において、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫することができるような指導をする割合は全国や千葉県よりも高い。しかし、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことができるような指導をする割合は全国や千葉県よりも低い。
- ・数学の指導において、実生活における事象との関連を図った授業を積極的に展開している。また、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動も、全国や千葉県よりも高い割合で行っている。
- ・英語の指導において、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動を行う割合は全国や千葉県よりも高い。しかし、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点を捉える言語活動を行う割合は全国や千葉県を大きく下回っている。
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善については、市内全校で高い意識で取り組み、全国や千葉県を上回っている。
- ・校内での授業研究や事例研究など、実践的な研修は積極的に行っている。しかし、校外における個々の教員が自らの専門性を高めるための教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している割合は全国や千葉県を下回っている。職員の研修に対する意識をいっそう高め、校外での研修にも参加しやすい体制の工夫が必要である。

<生徒質問紙>

- ・国語・数学・英語それぞれの「好き」の割合は、国や千葉県と同程度かやや上回っている。
- ・国語・数学・英語の「授業の内容がよく分かる」は、国や千葉県よりも高い。教科の学習に対する興味・関心が高いほど、理解度に対する生徒の認識も高くなっている。導入や教材・資料などを工夫して授業の改善を図り、興味・関心を高めていけば、さらに理解度は向上すると考えられる。
- ・「英語の勉強は大切」「英語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役立つ」と考えている生徒の割合は約9割であった。また、約4割の生徒が「将来、積極的に英語を使うような生活をしたたり職業に就いたりしたいと思いますか」に肯定的に答えており、多くの生徒が将来的に英語を使ってみたいと考えている。
- ・地域の行事に参加する割合は全国より低いが、印西市の経年変化では例年と同程度の割合であった。地域や社会をよくするために何をすべきかを考えている割合は全国や千葉県よりも高く、大幅に向上が見られた。継続して地域愛を育成していくことが大切である。
- ・自己有用感や規範意識に関する項目では、国や千葉県よりも上回っている。教員が生徒のよいところを認めることや集団での活動を通して良好な人間関係を築いていくことから、生徒の自己有用感や自尊感情が高まっていることが分かる。
- ・「朝食を毎日食べているか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ているか」の生活習慣等の項目では、印西市の経年変化の中でも下がっている。生活の安定が学習の成果に関連していることは周知の件であるため、引き続き規則正しい生活の声掛けを行っていく。